

Mail Connect 設定サンプル

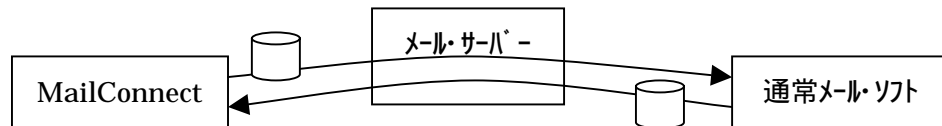
[] 前提

本書は、弊社のメールサーバー上に設定されたテスト用のメールアドレスを使いインターネットを経由して、MailConnect と通常メールソフト間で送信・受信を行う、設定サンプルです。お客様ご自身のメール環境下で MailConnect をご試用等される際の、設定の参考にしていただくことを主な目的としています。

また、ここに記載の設定内容をそのままお客様の PC 上に設定し、インターネット経由、弊社メールサーバーに直接アクセスして送信、受信等行う事も可能です。但し、複数のお客様が同時にこれを行えば、同一メールアドレスであるため、互いに錯綜して相手側に取り込まれる恐れがありますので、ご希望の方は事前に弊社にご連絡下さい。ご希望時間が重複する場合は弊社で調整させていただきます。

尚、万が一に備え、秘密データ等は決して流さないようにお願いします。

A. テストの概要



B. 今回のテストで使用する設定関連情報

1. メール・サーバー側設定情報

| | |
|-------|-------------------|
| SMTP | mail.global.co.jp |
| POP 3 | mail.global.co.jp |

2. クライアント側設定情報

| 各サイド | EDI メールアドレス | メールアカウント | パスワード |
|-------------|----------------------|--|---------|
| MailConnect | ediadr3@global.co.jp | ediadr3%global.co.jp | fmb2546 |
| 通常メールソフト | fujita@global.co.jp | 当サンプルでは左記を使いますが、 あなたのメールアドレスをお使い下さい | |

3. MailConnect 側、送信フォルダおよび受信フォルダ

C:ドライブ直下に以下のフォルダを作成します。

```
test_MailConnect
├── mc_recv <--- 受信フォルダ
└── mc_send <--- 送信フォルダ
```

[] 設定

まず、弊社 Web サイトのダウンロードページから MailConnect のインストールモジュールをダウンロードし、PC にインストールして下さい。

ここでは MailConnect とあなたが普段使っているメールアドレスとの間で送受信する想定で説明しています。

以下、MailConnect を実行させ、初期画面が表示されたところからご説明致します。

A. 環境設定 基本設定 の設定

1. 今回のテストで使用する MailConnect のメール設定関連情報

i) メールサーバ名情報

| | |
|-------|-------------------|
| SMTP | mail.global.co.jp |
| POP 3 | mail.global.co.jp |

ii) クライアント側設定情報

| メール名 | EDI メールアドレス | メールアカウント | パスワード |
|---------|----------------------|----------------------|---------|
| ediadr3 | ediadr3@global.co.jp | ediadr3%global.co.jp | fmb2546 |

2. 基本設定 メールサーバタブ 各欄の設定

上記 1 の情報を下記のように設定します。

基本設定 mcj0001 業務1

メールサーバ | バックアップ | 接続 | 相手担当者へのメール | 障害時メール発信

EDIメールアドレス

返信アドレス

送信

送信メール(SMTP) ポート番号 (通常 25)

POP before SMTP

SMTP認証

受信

受信メールサーバーの種類: POP3 IMAP4

受信メール(POP3) ポート番号 (通常 110)

アカウント

パスワード

暗号化パスワード認証を行なう

サーバーのタイムアウト 秒 (通常 120)

ライセンス番号

公開キー

送受信メールサーバー及びメールアドレスを設定してください。

3. 基本設定 他のタブの設定

基本設定の中の他のタブ即ち、バックアップ、接続、相手担当者へのメール、障害時メール発信の各タブは、デフォルト値をそのまま使うかまたは当該機能を今回使用しない等の理由で新規の設定は行いません。

B. 環境設定 アドレス帳設定 の設定

当方の MailConnect と送受信する全ての相手先を登録します。

新規設定ボタンを押し、E D Iメールアドレス欄にあなたのメールアドレスを入れて下さい。グループ名、名称も決めて入力します。(以上の3項目は入力必須項目で、他の欄は全て任意入力項目です。)

メールアドレス帳保守(新規作成) mcj0001 業務1

メールアドレス帳保守(新規作成)

OK
キャンセル

| | |
|---------------------|------------|
| グループ | 名称 |
| SalesDept_Group | Fujita |
| EDI用メールアドレス | 担当者メールアドレス |
| fujita@global.co.jp | |

あなたのメールアドレスをEDI用メールアドレス欄に入力、グループ名、名称も入力必須項目ですので決めて入れて下さい。
他は任意入力項目です。

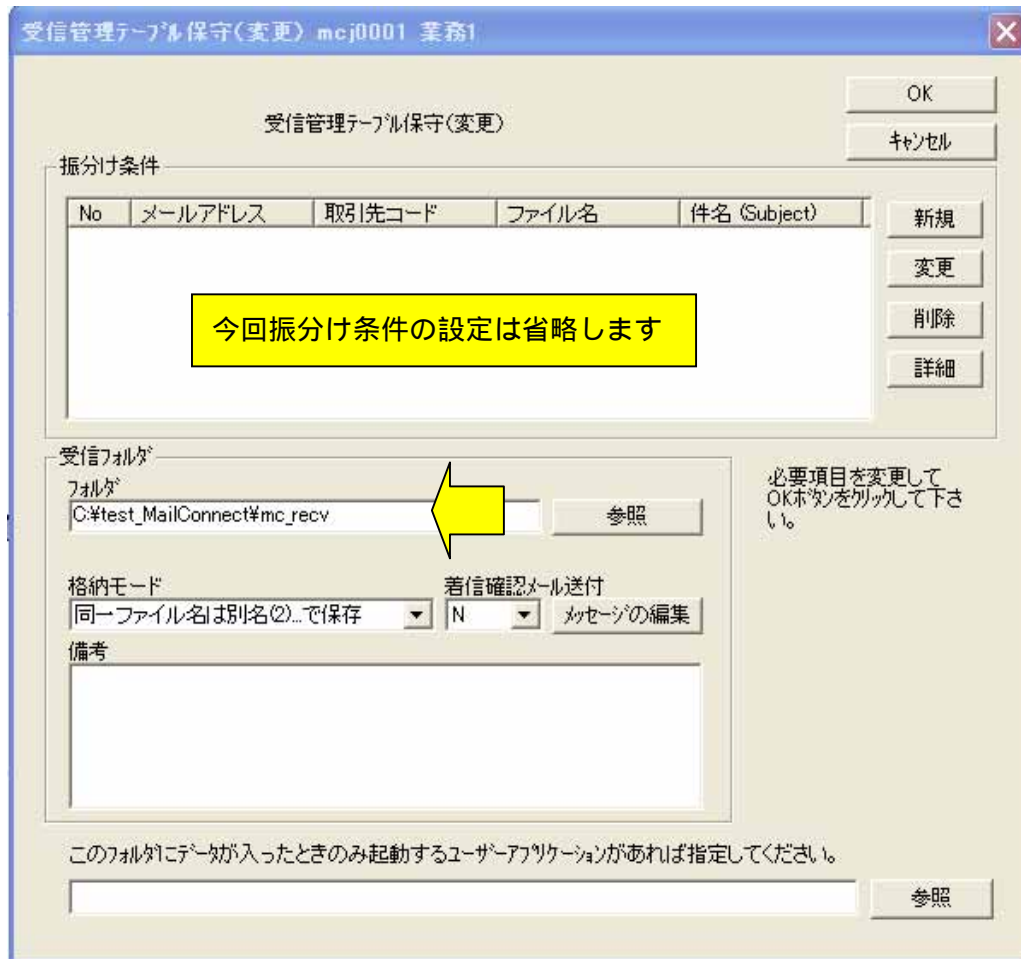
| | |
|--------|--------|
| 取引先コード | 会社名 |
| 担当者部署 | 担当者氏名 |
| 担当者TEL | 担当者FAX |
| 備考 | |

必要項目を入力してOKボタンをクリックして下さい。

C. 環境設定 受信環境設定 受信フォルダ設定 の設定

Cドライブ上に作成済みの下記フォルダを受信フォルダとして設定します。

test_MailConnect
mc_recv <--- 受信フォルダ
mc_send <--- 送信フォルダ



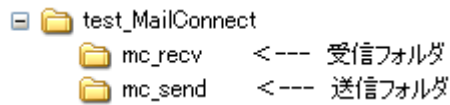
以上の設定により受信されたメールの添付ファイルは全て
C:\test_MailConnect\mc_recv のフォルダに入ります。

この後の、環境設定 受信環境設定 着信許可メールアドレス一覧と業務 AP 自動起
動、の設定は今回行いません。

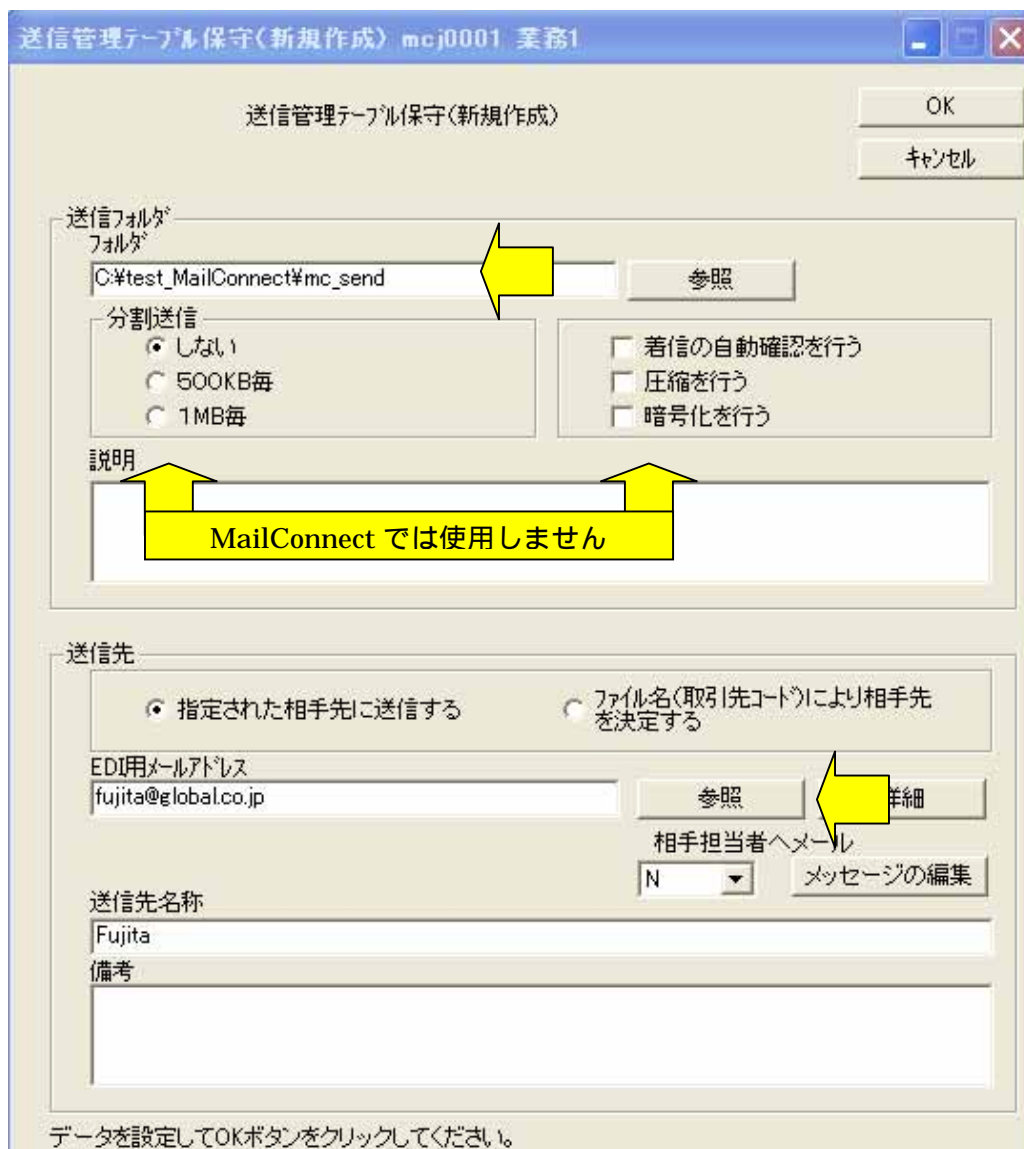
D. 環境設定 送信環境 の設定

1. 環境設定 送信環境 送信フォルダ設定 の設定

新規作成ボタンを押下し、送信フォルダの設定を行います。



更に、参照ボタン押下 アドレス帳から送信先（あなたのメールアドレス）を選択して、送信先の E D Iメールアドレス欄に、設定します。



以上の設定により、C:\test_MailConnect\mc_send のフォルダに入れられたファイルは、送信タスクが稼働した時、fujita@global.co.jp のアドレスに添付ファイルとして送られます。

2. 環境設定 送信環境 送信メッセージ編集 の設定

ここで編集・設定された件名(subject)とメール本文に上記1.の送信ファイルが添付されてメールとして相手先に送られます。

添付ファイルはその都度変わりますが、件名と本文は常に固定です。

送信メッセージ編集 mcj0001 業務1

送信メッセージ編集

OK

キャンセル

件名

立替経費支払いの件

本文

藤田達彦殿

お疲れ様です。
掲題の件につき、貴殿の振り込み口座に振り込み致しました。
詳細は添付ファイルをご覧ください。

以上。

経理部

[] 実行

A . 送信

1 . 送信 (ワンショット)

送信フォルダ(c:\¥test_MailConnect¥mc_send)に送信データを入れます。MailConnect 初期画面の“送信”ボタン押下 次画面の“全件送信”ボタン押下により、送信フォルダ中のファイルがあなたのメールアドレス(上記設定例では、fujita@global.co.jp)に送られます。送信後、送信フォルダは空になりますが、送信バックアップフォルダ中にプロテクト保存され、必要なときに取り出すことが可能です。

送信フォルダ中に複数のファイルを入れた場合、それぞれが別々のメールに添付されて送られます。一緒に纏めたいときは送信フォルダ中に任意の名前のフォルダを作り、その中に纏めたいファイルを全て入れれば1メールに複数の添付ファイルとして送られます。送信後はこの任意フォルダごとバックアップフォルダに移され、送信フォルダは空になります。

ワンショット送信動作は、設定されている全ての送信フォルダ中を調べ、データがあれば全て当該相手先に送信して動作は終了します。

あなたのメールソフトを稼働させて着信メール読み込みを行って下さい。上記 MailConnect 送信フォルダから送られたファイルが添付ファイルとして付加されたメールが届きます。

上記“全件送信”ボタン押下操作と同様の事柄を、手操作ではなく他のプログラム等から実行させるコマンドラインは下記の通り(\$ は空白と置き換えて下さい)です。(オペレーションマニュアル 21 ページ 7 . 他のプログラムからの起動方法を参照)

```
C:\¥Program$Files¥Internet_EDI_Pro¥PROGRAM¥EDI_Send_MailConnect.exe$mcj0001/S
```

アプリケーション・プログラム(以下 AP)と自動連係したいときは、AP で作られた送信データを送信フォルダに入れ、上記コマンドラインを AP から自動発行する事により可能となります。

2 . 常駐型送信

MailConnect 初期画面の“送信”ボタン押下 次画面の“常駐型”ボタン押下 実行頻度を分単位(例えば1等)で入力して OK ボタンを押下します。これにより上記1 . のワンショット送信動作が指定した頻度で間歇的に継続実行されます。実行頻度の数字に、0 を入れればリアルタイム待ち受けモードとなり、送信フォルダにデータを入れれば待ち時間無しに即送られます。

送信フォルダに送信データを入れれば、次回の実行(0指定では即)時に自動送信されます。

常駐型で稼働しているときは、AP で送信データが出来たとき自由に送信

フォルダに入れば MailConnect の送信タスクが自動的に送り、A P と MailConnect による送信の自動連係がなされることとなります。

上記 “ 常駐型送信 ” ボタン押下操作と同様の事柄を、手操作ではなく他のプログラム等から実行させるコマンドラインは下記の通り (\$ は空白と置き換えて下さい)です。(オペレーションマニュアル 2 1 ページ 7 . 他のプログラムからの起動方法を参照)

C:\Program\$Files¥Internet_EDI_Pro¥PROGRAM¥EDI_Send_MailConnect.exe \$mcj0001/Inn nn は頻度を分単位で入れます。 0 とすればリアルタイム送信モードとなります。

B . 受信

1 . 受信 (ワンショット)

通常メールソフトを使って MailConnect の EDI メールアドレス (上記設定では ediadr3@global.co.jp)宛に添付ファイル付きでメール送信します。MailConnect 初期画面の “ 受信データ取込み ” ボタン押下 次の画面の “ 着信データ取込み ” ボタン押下により、ediadr3%global.co.jp のアカウントに届いている全てのメールを取り込みその添付ファイルを受信フォルダに貯蔵します。

(受信後 c:\test_MailConnect¥mc_recv の内容を確認して下さい。)

上記 “ 着信データ取込み ” ボタン押下操作と同様の事柄を、手操作ではなく他のプログラム等から実行させるコマンドラインは下記の通り (\$ は空白と置き換えて下さい)です。(オペレーションマニュアル 2 3 ページ <受信処理>を参照)

C:\Program\$Files¥Internet_EDI_Pro¥PROGRAM¥EDI_Receive_MailConnect.exe\$mcj0001/R

2 . 常駐型受信

MailConnect 初期画面の “ 受信データ取込み ” ボタン押下 次の画面の “ 常駐型 ” ボタン押下 実行頻度を分単位 (例えば 5 等)で入力して OK ボタンを押下します。これにより上記 1 . のワンショット受信動作が指定した頻度で間歇的に継続実行されます。

これを実行させたまま、メールソフト側から添付ファイル付きでメールを送れば、受信フォルダ (c:\test_MailConnect¥mc_recv) に添付ファイルのみが自動的に届きます。

上記 “ 常駐型 ” ボタン押下操作と同様の事柄を、他のプログラム等から実行させるコマンドラインは下記の通り (\$ は空白と置き換えて下さい)です。(オペレーションマニュアル 2 3 ページ <受信処理>を参照)

C:\Program\$Files¥Internet_EDI_Pro¥PROGRAM¥EDI_Receive_MailConnect.exe\$mcj0001/Inn nn 分おきに読み込み動作を繰り返します。

C . 排他制御

ここで排他制御とは、MailConnect と A P とが送信または受信フォルダを介してファイル受渡しをする際、一方がフォルダにファイルを書込み中に、他方がこれを読み出そうとしたとき、発生するかもしれない障害を避けるための制御を言います。

1 . 送信時の排他制御（必要ありません）

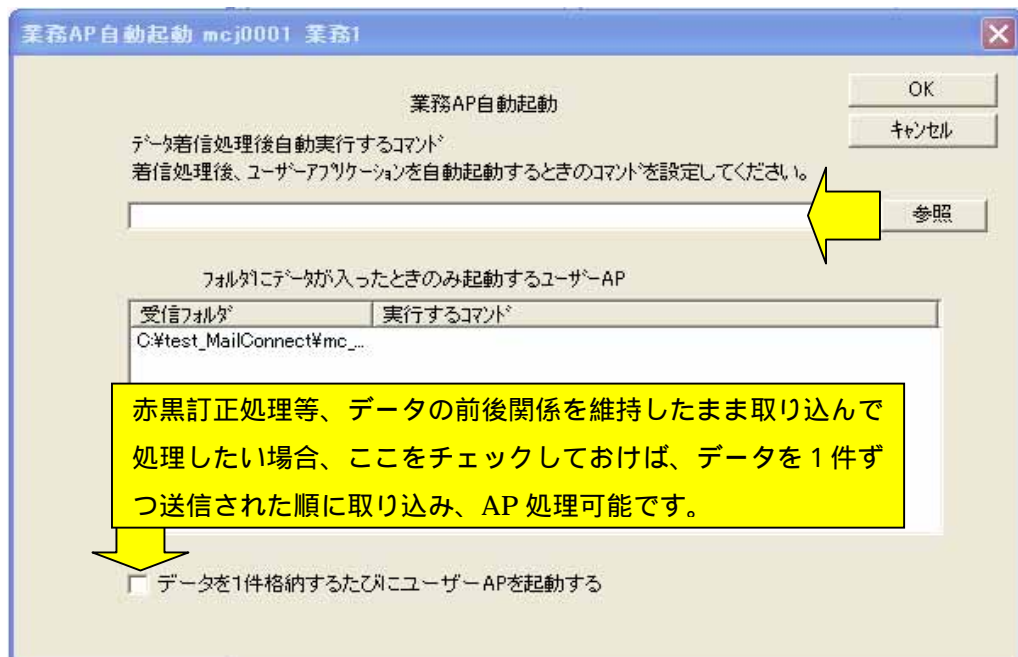
送信の際、A P 送信フォルダ MailConnect 送信タスク間の排他制御問題は、MailConnect 側で処理していますので、A P では一切考慮する必要はなく、自由に送信フォルダにデータを入れて送信させることができます

2 . 受信時の排他制御（必要です）

受信の際、MailConnect 受信タスク 受信フォルダ A P 間の排他制御問題は、A P 側で考慮する必要があります。即ち、A P が受信フォルダからデータを取り出す際、MailConnect 受信タスクが送信フォルダに作成中のファイルは取り出さないような処理を行う必要があります。下記のように業務 A P を MailConnect に起動させることにより、この煩わしさを避けることができます。

MailConnect 初期画面の環境設定プルダウンメニューから、環境設定 受信環境 業務 A P 自動起動 画面設定により、業務 A P の起動を MailConnect 受信タスクに行わせませす。

MailConnect の業務 A P 自動起動機能で業務 A P が開始された場合、この A P が終了するまで、次の読み込み動作は開始されません。これにより排他制御問題は発生致しません。



以上。